

独立行政法人日本万国博覧会記念機構の中期目標評価の総括評価シート

S : 中期目標を大幅に上回る実績をあげた。
 A : 中期目標を十分に達成した。
 B : 中期目標をおおむね達成した。
 C : 中期目標を達成していないが、進展はあった。
 D : 中期目標を達成しておらず、業務運営の改善等が必要である。

項目別評価

評価項目	評価	理由・指摘事項等
<p>大項目1 業務運営の効率化に関する目標を達成するための措置</p> <p style="font-size: 2em; margin-left: 10px;">{</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 業務の効率的処理</p> <p style="font-size: 2em; margin-left: 10px;">}</p>	A	<p>業務運営の効率化にかかる、経費の削減、組織体制の再編、競争的な契約の拡大等については、中期目標を達成していると評価できることから、本項目の評価はAとする。</p> <p>次期中期では、単なる費用の削減にとどまらず、業務内容の安全性や質の管理に対する配慮、包括的な安全管理体制を実現していくための組織の見直し、より一層の業務運営の効率化に結びつく人事評価や研修制度、契約の透明性や競争性の向上を図るための公募手続きや企画競争手続きの改善などを検討されることを期待する。</p>
<p>大項目2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置</p> <p style="font-size: 2em; margin-left: 10px;">{</p> <p style="margin-left: 20px;">【公園事業】</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 利用者に対するサービスの向上</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 環境保全への積極的な貢献</p> <p style="margin-left: 20px;">(3) 廃棄物等の縮減、リサイクルの推進、省資源・省エネルギー対策などの環境保全に関する計画の策定</p> <p style="margin-left: 20px;">(4) 地域社会への積極的な貢献</p> <p style="margin-left: 20px;">【基金事業】</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 効果的な助成金の交付</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 助成金の交付に係る選定手続き等における客観性及び透明性の確保</p> <p style="margin-left: 20px;">(3) 基金の管理及び運用における客観性及び透明性の確保</p> <p style="font-size: 2em; margin-left: 10px;">}</p>	A	<p>公園事業では、利用者に対するサービスの向上、環境保全への積極的な貢献及び地域社会への積極的な貢献について、中期目標の指示を達成したと評価できる。また、基金事業では、効率的な助成金の交付、交付に係る選定手続きや基金の管理及び運用における客観性及び透明性の確保について、中期目標の指示を達成していると評価できる。以上のことから、本項目の評価はAとする。</p> <p>しかしながら、公園内の安全確保については、平成19年度、管理運営を委託している遊戯施設において、死傷事故が発生するという痛ましい出来事があった。事故を起こした施設については、委託先の会社の所有物である等、本件に関しては、法的な責任は全て、委託先に帰属するものであるが、公園内において尊い人命が失われたということは誠に遺憾である。第2期の中期目標において、公園内の安全確保については、「公園内の施設の管理方法、委託契約の内容等について、安全に配慮する観点から必要な見直しを行なうとともにその取組状況を公表する」よう明確に指示されており、今後二度とこのような痛ましい事故が起こらないよう徹底した安全確保のための取組みが望まれる。</p> <p>さらに、潜在的なニーズの把握に努め、万博公園に求められているニーズのタイプなどを明らかにし、有識者の意見を一層活用されることを期待する。また、より一層の利用者へのサービスの向上や、環境保全に対するより具体的な数値目標の導入が期待される。広域的な防災拠点としては、機構側でも積極的な防災対応マニュアルの作成や訓練への参加など災害時への対応力の強化が期待される。</p>

<p>大項目 3 予算、収支計画及び資金計画</p>	<p>A</p>	<p>中期目標期間中の公園入場料等収入が着実に増加しており、健全な財務内容の維持が達成できていると思われる。よって、中期目標の指示を達成したと評価できることから本項目の評定はAとする。</p> <p>次期中期では、エキスポランドの運営収入や大阪府の児童文学館の土地貸付料収入について、先行きが不透明な部分があり、健全な財務内容の維持のために、状況に応じた対処が必要である。また、現状に満足するのではなく、日本及びアジアを代表するような都市型公園を目指すべきであり、そうしたビジョンにそって、一層の経営努力が期待される。</p>
<p>大項目 4 短期借入金の限度額</p>	<p>該当なし</p>	
<p>大項目 5 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画</p>	<p>該当なし</p>	
<p>大項目 6 剰余金の使途</p>	<p>A</p>	<p>中期計画に定められている通り、平成 18 年度において公園事業から生じた剰余金(目的積立金)を施設・設備の更新、整備に充てており、また、基金事業から生じた剰余金(目的積立金)を、助成に充てており、積立金の使途について適切に処理されている。以上のことから、本項目の評定はAとする。</p>
<p>大項目 7 その他財務省令で定める業務運営に関する事項</p> <p>(1) 人事に関する計画 (2) 公園整備等に関する計画</p>	<p>A</p>	<p>人事に関する計画、施設及び設備に関する計画については、中期目標の指示を達成していると評価できることから、本項目の評定はAとする。</p> <p>次期中期では、減損の兆候のある「鉄鋼館」「万国橋」について、計画に沿った利用が必要である。また、万博公園の遺産を生かした魅力ある公園施設整備計画も具体化されることを期待する。</p>

全体評価

独立行政法人日本万国博覧会記念機構（以下「機構」という。）は、日本万国博覧会の基本理念である「人類の進歩と調和」を広く国内外に向けて発信すべく、日本万国博覧会の資産を活かし、緑に包まれた公園の適正な運営を行い、これを国民の利用に供するとともに、日本万国博覧会の成功を記念するにふさわしい文化的活動や国際相互理解の促進に資する活動の支援を行う重要な役割を担っている。

機構は、独法に移行して、最初の中期目標期間（第1期：平成15年10月1日～平成20年3月31日）が終了したところであるが、同期間における機構の業務の実績については、毎事業年度の実績評価において当評価委員会が指摘した業務の改善事項等について、翌年度以降的確に業務に反映する等、中期目標を十分に達成しているものと評価できる。

しかしながら、中期目標期間の最終事業年度に当たる平成19年度、運営を委託している遊戯施設において死傷事故が発生するという痛ましい出来事があった（平成19年5月5日発生）。当評価委員会としては、これを極めて重大な事項と受けとめ、機構から事故の詳細な経緯等について聴取するとともに、万博記念公園内の安全確保のための取組みを要請した。また、この点については国民に分かりやすい形で評価を行なうべく、平成19事業年度評価においては、新たに「公園内の安全確保」の項目を設けて評価を実施した。機構においては、平成19事業年度公園内の安全確保のため、「万博記念公園安全管理対応指針」を取りまとめた外、公園内の施設管理者及び業務受託者等で構成する「万博記念公園安全管理連絡会議」を発足する等の取組みを行ったところであるが、未だ安全確保のための取組みとしては不十分と言わざるを得ない。第2期中期目標において、公園内の安全確保については、「公園内の施設の管理方法、委託契約の内容等について、安全に配慮する観点から必要な見直しを行なうとともにその取組状況を公表する」よう明確に指示されており、今後二度とこのような痛ましい事故が起こらないよう徹底した安全確保のための取組みが望まれる。

業務運営の効率化については、総費用及び一般管理費のいずれも、中期目標における数値目標である20%以上の削減を達成（総費用：28.8%、一般管理費：22.4%）している外、人件費の削減においても、平成17年度と比較して5.1%（年度計画における目標値：3.9%以上）の削減を達成している。また、経費を効率的に執行するため、随意契約を削減し競争的な契約への移行が着実に進められた外、「随意契約適格審査会」及び「企画競争実施委員会」を設置する等により、適正に契約業務を実施したものと認められる。

次期中期目標期間においては、業務内容の安全性や質の管理に対する配慮、包括的な安全管理体制を実現していくための組織の見直し、より一層の業務運営の効率化に結びつく人事評価や研修制度、契約の透明性や競争性の向上を図るための公募手続きや企画競争手続きの改善を期待する。

公園事業に関しては、利用者ニーズへの対応、積極的な広報活動により、公園入園者数及びスポーツ施設等の利用件数は、中期目標において指示された目標値を上回っている外、都市の中の自然豊かな公園を運営するに際し、バイオマスの有効活用に徹底して取り組んでおり、エネルギー利用、資源としての循環利用、特産品作り等「ゼロエミッション型都市公園」として具体的な成果をあげている。その他、省エネルギー、新エネルギーの確保等、総合的な視点での環境対策を着実に進めており、持続可能な社会に向けた「都市公園のあり方」や「都市と緑のあり方」に多様な示唆を与えるものと考えられる。また、公園の運営にあたっては、NPOも含めた民間活力の導入、地域の住民団体・環境グループの参画、教育委員会との連携など社会の多様な主体の参加・参画により連携を広げた運営を定着させている。これらのソフト分野の充実、人材育成へと明確につながっており、将来的に万博記念公園を愛する人の環を厚くするものであり、優れた功績と評価される。

次期中期目標期間においては、潜在的なニーズの把握に努め、万博公園に求められているニーズのタイプなどを明らかにし、有識者の意見を一層活用されることを期待する。

基金事業に関しては、公園事業と基金事業の連携を深め、相乗効果を増大させる仕組みとして「万博公園賑わい創出支援事業」を創設する等、種々の努力が

行なわれているが、その進捗状況は公園事業に比べ遅く、今中期目標期間には体制を整えるので精一杯であったとの印象が強い。次期中期目標期間においては、今中期目標期間における一連の改革の成果が現れることが期待される。また、事後評価の実施結果の公表等により機構が助成対象として期待している事例についての情報公開をする等により、基金助成金をより使いやすい助成金とする取組みが望まれる。

財務内容に関しては、営業努力の甲斐もあり、公園入場者等収入が着実に増加しており、健全な財務内容の維持が達成できている。

次期中期目標期間においては、現状に満足するのではなく、利用者の安全・安心に一層配慮し、日本及びアジアを代表するような都市型公園を目指すべきであり、そうしたビジョンにそって、一層の経営努力が期待される。